

第 1 1 回沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会
議事要旨

沖縄振興局新大学院大学企画推進室

日 時：平成 2 1 年 2 月 6 日（金） 1 4 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

場 所：中央合同庁舎 4 号館 共用 1 2 1 4 特別会議室

出席委員：平澤分科会長、遠藤分科会長代理、伊集院委員、長岡委員

議事概要

1. 大学院大学の開学に向けた取組状況について

大学院大学の開学に向けた取組状況について、①平成 2 0 年 1 2 月に関係 5 閣僚間で申合せを行ったこと、②2 次補正予算において大学院大学の整備促進のための経費が措置されたことについて事務局より説明がなされた（資料 1、資料 2）。

2. 第 2 期中期目標案について

沖縄機構の次期中期目標案について事務局より説明がなされた（資料 3-1、資料 3-2）。委員より主に以下の発言があり、必要な修正を行った上で、2 月 2 5 日の内閣府評価委員会に提出されることとなった。

○前文に「～ 2 1 世紀の沖縄の振興のみならず」という表現があるが、沖縄振興との関係を具体的に書くべき。大学院大学が沖縄の知的基盤の中核となって向上させていくというようなことを記載できないか。

○研究者や学生への支援について充実させるべき。国外のトップレベルの大学と競うためには奨学金制度等を充実させる必要がある。国内でも優秀な学生を取り合う競争が激しい状況であるため、学生への支援を充実させなくては優秀な学生は集まらないだろう。

○大学院大学への財政支援については、国内の国立大学並みの補助に若干上乗せした程度では、世界最高水準を目指す上で厳しいだろう。独自の財源を持つことを目指すべき。そのため、人材獲得などを目標に盛り込む必要がある。

○地域社会との連携とあるが、大学院大学が県内の優れた人材を活用し、地域

社会とのネットワークを作っていく必要があるのではないか。

3. 地域社会との政策評価・独立行政法人評価委員会意見について

政策評価・独立行政法人評価委員会からの、平成19年度評価に関する意見について、事務局より報告がなされた。

4. 平成20年度業務実績評価について

平成20年度評価（項目別評価表等）について、事務局より説明がなされた。委員より主に以下の意見があった。これを踏まえ、評価表案について、必要な修正を加えることとなった。

○評価の視点に研究者の増員とあるが、採用人数だけでなく高い質も担保する必要。評価を行う際に、どのような視点で採用をしているのか説明できる必要があるだろう。

○コンプライアンス上のルールについては、ITを活用し、ワークフローを管理できるようにする必要があるのではないか。

○一般競争入札について、1者応札率の割合について説明するときには、その中身を契約の性質などにより区別されるようにすべきではないか。

○監事監査について整理合理化計画の中で具体的に記載されているのであれば、それを内部規則等に盛り込む必要がある。評価の際には、その内部規則や監査計画に沿って監事監査が行われていれば、その報告書をもとに評価を行うことができる。

5. 第1期中期目標期間の実績評価について

第1期中期目標期間の実績評価について、事務局より説明がなされた。

6. その他

第10回分科会において審議を行った理事長の旅費に関する監査について、報告書がとりまとめられ、公表された旨の報告が、事務局よりなされた。